

第47回運営委員会 議事録（敬称略）

| | |
|---------|--|
| 日時 | 2013年5月22日（水） 17:00～19:00 |
| 場所 | 全日本病院協会 6階大会議室 |
| 出席者 | 石川雅一、市川はるひ、井上修、浦川新、神谷洋平、甲谷勝人 齊藤秀夫、知原修、森口美由紀、山口珪紀、小田晋吾、田中滋 木村敏雄、栗田充治*、吉野八重*、梶山佳伸* *新運営委員 |
| オブザーバー | 岩城康雄、谷村梨沙、萩原克美、望月裕也、山崎茂之 山本康晴、若松英樹 |
| 海外所長 | 伊藤美夏、林朝子 |
| 運営委員ご欠席 | 原田勝広、田中紀雄、金子みどり、赤田幸雄 |
| 事務局 | 大河内恒、小川敏夫、北島弘、塩田勝雄、杉山久子、中田好美 西墻裕子、蓮見雅彦、南部道子、畑真弓、横尾勝、山崎承一 矢崎祐子 |

- (1) 出席者（運営委員とオブザーバー）本日トピックを紹介
- (2) カンボジア活動報告：林所長（当日資料参照）
 - Q：保健搬送システムのメンバー/ドライバーへの謝金は？（栗田）
 - A：1村での運営委員メンバーは7名、緊急対応の為ドライバーは2名体制にしている。謝金は少額である。
基本的には搬送対象を母子保健医療に限定している。（林）
 - Q：搬送可能事例の判断は誰がするのか？（石川）
 - A：村人が行う。現場では重症患者のみが対象になる。（林）
- (3) カンボジア視察報告：大塚製薬・梶山様（当日資料参照）
- (4) インドネシア活動報告：伊藤所長（当日資料参照）
- (5) タイ事業 出張報告：海外事業 中田（当日資料参照）
 - C：各事業活動報告を聞いて、カンボジアでの事業計画書（PDM）をタイ事業に水平展開をして行のは良いことである。
PHJのプログラムがステージアップして行くのは嬉しい。（田中）
- (6) 東日本大震災復興支援：横尾（当日資料参照）

(7) PHJ 海外事業の中期計画と第4か国調査状況報告（ミャンマー）：木村
（当日資料参照）

(8) Q&A 他

C：カンボジアの搬送システムのアイデアの水平展開を推進して欲しい。（甲谷）

C：タイのノウハウをベトナムに生かしている。2016年タイのハンドオーバーは良いと思う。（甲谷）

Q：インドネシアの広大な地域での母子保健医療支援をカバーすることは大変であると思うが、一方で高い経済成長率を実現している国である。国としての自助努力の方向性はいかがですか？（甲谷）

A：国全体としてのGDP成長率は高いが人口の7割が地方での貧困に困窮している。格差があり1人あたりのGDP向上ではないと思う。地方分権制度の導入に伴い、国としてのシステム構築や財政状況は決して良くない。（伊藤）

C：スタッフの人材育成の為にスタディツアー等の実施によるPHJファンを増やしてはいかがですか。（栗田）

A：埼玉大では授業の一環としてカンボジアのフィールド調査。一般公募のツアーと合わせて年2回定期実施中。参加者はPHJの理解を深めている。（木村）

Q：従来カンボジアで母子保健医療（教育）を実施してきたが、今後搬送システムに移行をするのか？（森口）

A：従来の活動と密接な関係があるので両立させながら相乗効果を上げて行く。（林）

Q：第4か国への事業計画審査のプロセス/PHJが企画をするのか、現地のニーズの審査をもとにするのか？（森口）

A：PHJのノウハウを生かしながら各地域の文化等特性を勘案し専門家の意見も取り入れ地域のニーズに合わせて行きたい。まだそのステップは確立されていません。（中田）

C：計画段階で慎重になりすぎないでリスクを冒すことも必要ではないか。母子保健データを提示されているが信用出来ないものもある。（石川）

A：失敗を恐れずに勇気をもってやって行くつもりです。

今後とも皆様のお知恵を借りながら、活動のレベルを上げて行きます。

（木村）

・「アジアのお話カレンダー・20014年版」の紹介（南部）

・「募金型・自販機」サントリービバレッジとのタイアップ紹介（木村）

以上 19：00 閉会